

## 【続報】新型コロナウイルスによる物流への影響

新型コロナウイルスの感染者数は全世界で324万人を超え、死者は23万人を突破しました。最も被害が大きな米国ではこれまでに約105万人が感染し、死者も6万人を超えています。本号では各国における物流への影響を中心に伝えます。(前号までに発信した各国の状況と併せ、追加情報を赤字で掲載しております。)

### 1. 各国における物流への影響

【更新情報のある国・地域】 ※更新情報は下線を引いています。

	国/地域	最新情報 発信日	概要
米州	メキシコ	5月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>The National Security Council は、トラック輸送貨物の盗難被害が50%増加する可能性がある</u>と懸念しています。4月にはプエブラ-ベラクルス、ベラクルス-タバスコのルートでタイヤをパンクさせ貨物を盗難する事件が発生しました。SensiGuardの発表によると、<u>貨物盗難被害は70%が市街地で発生し、15%が西部、9%が北東部で発生しています。</u></li> <li>・<u>コロナウイルス感染拡大に伴い、メキシコ国内のトラック輸送が25%増加しています。特にハリスコ州サポパンとグアダハラにおいて、食品や飲料などの必需品の輸送が増えています。</u></li> <li>・メキシコシティ市内では商業施設が閉鎖、50人以上のイベントが中止となっています。</li> <li>・メキシコ雇用者協会(COPARMEX)は輸送中の貨物を守るため盗難リスクの高いルート(メキシコシティ-プエブラ-ベラクルス-タバスコをつなぐルート、および、メキシコシティ-ケタロ-グアナファト-ラサロ-カルデナスをつなぐルート)における対策強化を政府に申し入れています。</li> <li>・検疫を装ってトラックを停止させて貨物を盗難する手口が報告されています。</li> </ul>
	トルコ	5月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>5月1日～3日に31県で外出禁止令が出され、休校措置は31日まで延長となりました。</u></li> </ul>
欧州	チェコ	5月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>非常事態宣言を5月17日まで延長となりました。新規感染者数が減少傾向にあるため、当初検討されていた期限より1週間短縮となっています。</u></li> </ul>
東アジア	日本	5月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>東京港では、3月後半頃から中国発着の貨物量が回復してきており、通常並みの混雑が発生しています。</u></li> <li>・<u>3月のアジア18か国発米国向け往航コンテナ貨物輸送量は、前年同月比16%減の102.6万TEUとなりました。(米国側では3月中旬から開始された外出禁止令により、荷主が貨物を引き取れなくなり、コンテナが港に置かれたままになっているケースが発生しています。)</u></li> <li>・<u>緊急事態宣言が発令されてから約3週間が経過しましたが、主要港ではコンテナヤードからの輸入貨物搬出の混乱等は生じていません。</u></li> <li>・名古屋港のコンテナ取扱量は輸入は2月 前年同月比24%減・3月16%減に対し、輸出は2月が12%減・3月が15%減と徐々に輸出のマイナス傾向が拡大しています。また、コンテナターミナルでは中国からの輸入が減少したことを受けて、2月から全ターミナルで実入りコンテナ搬出の時間外ゲートオープンを午後6時まで短縮していましたが、4月17日からは搬入も同様に短縮となっています。</li> </ul>

東 南 ア ジ ア	インドネシア	5月1日	<p>・国内の航空貨物輸送の増加により、積み替えが行われる地方の拠点空港で貨物の滞留が発生始めています。東部地域へ輸送する貨物機が不足しており、南スラウェシ州マカッサルのスルタン・ハサヌディン空港や東ジャワ州スラバヤのジュアンダ空港、首都ジャカルタ郊外のスカルノ・ハッタ国際空港で滞留が生じています。</p> <p>・国鉄では米や果物・野菜などの生鮮食料品を含む小売品の鉄道輸送を開始しました。鉄道の旅客数減少に伴い貨物輸送事業を強化しており、ジャワ島内 60 駅に設置した窓口で小売品の持ち込みと受け取りが可能になります。</p>
	マレーシア	5月1日	<p>・マレーシア運輸省は 28 日、活動制限令「フェーズ 4」(4月29日～5月12日) で国内すべての港湾の操業を正常化すると発表しました。貿易産業省から操業許可を得た企業による輸出入のみが対象となり、港湾は必需品以外を含む輸出入で 24 時間操業が可能となりました。</p> <p>・マレーシアでは、主要港に保管されていた輸入貨物などの輸送が開始され港湾の混雑が緩和されつつありますが、加工工場が一部操業していないほか、完成品の輸出が滞っていることで、国内倉庫の収容能力が限界に近づいています。運輸省はこれまで 4 回にわたり貨物の引取りを求めています。活動制限令により全面的な操業が認められていない自動車・建設関連企業向けの原材料保管が増加し続けており、コンテナの積み残しに繋がっています。</p>
	フィリピン	5月1日	<p>・マニラ首都圏を含むルソン島全域のロックダウンを 5月15日まで再延長となりました。</p> <p>・ルソン島全域で実施されている外出・移動制限の中でも、マニラ南港・バタンガス港のコンテナターミナルはそれぞれ稼働率 70%・50%で運営されています。</p>
南 ア ジ ア	インド	5月1日	<p>・4月20日よりロックダウンが一部緩和されましたが、工場は操業を再開できていないため輸入貨物が港湾やCFSに滞留しています。また、船舶省よりデマラージを免除する通達が発出されていることや港湾作業員・ドライバー不足、エンドユーザーの需要減少、資金不足により関税が支払えない等の事由により、受荷主は貨物の引取に消極的になっており、5月4日にロックダウンが解除されるまで貨物が港湾やCFS内に滞留することが懸念されます。政府は全ての貨物の引取りを許可していますが、作業員不足により混乱が継続しており、状況の改善には少なくとも1週間要すると見込まれています。</p>

【過去の発信情報まとめ】 ※物流以外の更新情報がある場合は下線を引いています。

	国/地域	最新情報 発信日	概要
米州	アメリカ	4月27日	<p>【ロサンゼルス港・ロングビーチ港】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテナ船の入港が激減した影響で、各ターミナルではゲートオープンの時間が制限されています。またロサンゼルス港では、通常の80%程度の稼働率でオペレーションを継続しています。</li> </ul> <p>【ジャクソンビル港・マイアミ港・カナヴェラル港】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務所はクローズとなっていますが、オペレーションは継続しています。</li> </ul> <p>【サバナ港】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週土曜日トラックドライバーのオペレーションを中止することを発表しました。</li> <li>・港湾施設の稼働スケジュールについても週5~6日へ短縮し、トラックの稼働時間も削減するとしています。</li> </ul> <p>【バージニア港】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物流量の減少に伴い、5月4日よりPortsmouth Marine Terminalをクローズして、Virginia International Gateway (VIG) と Norfolk International Terminals (NIT)においては、同日よりゲートオープン時間を1時間短縮しオペレーションを継続する旨発表しています。</li> </ul> <p>【ニューヨーク州】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急事態宣言発表以降、店舗での盗難事件が多発しています。中でも現金を取り扱うスーパーマーケットの夜間閉店中の強盗が増加しています。</li> </ul>
	ブラジル	4月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点では、高速道路・港湾・空港とも貨物輸送においては影響はありません。</li> </ul>
欧州	欧州周辺	4月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シェンゲン協定加盟国のほとんどが国境を閉鎖していますが、欧州各国では貨物輸送は制限されていません。一方でドライバー不足が発生しており、国境を越えるトラック輸送に遅延が生じています。</li> <li>・シェンゲン圏ではコロナウイルス感染拡大防止のため、アメリカとその他旅客の圏内への入域を9月まで禁止する予定です。また、EU加盟国とシェンゲン圏加盟国は3月17日から30日間国境を閉鎖していましたが、加盟国の同意を得た場合は1カ月延長となる可能性があります。</li> <li>・海上・航空輸送ともに減便のためキャパシティが不足しています。海上輸送では中国・アジアからの船便減少により空コンテナ不足が生じています。</li> <li>・ドイツ・デンマーク・イタリア等一部の国では商店・書店等一部の業種に限り営業再開をしています。</li> </ul>
	フランス	4月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月11日より一部の制限を解除する方向で進めています。</li> </ul>
	オーストリア	5月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月1日から外出制限が解除となります。</li> </ul>
	スペイン	4月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設業や製造業の一部企業の営業再開を認めました。</li> <li>・非常事態宣言を5月9日まで延長し、バーや公共施設は引き続き営業停止となっています。ホテルや飲食店は宅配サービスのみ許可されています。</li> </ul>

	<b>(中欧班列)</b>	4月7日	・中国～欧州間の航空貨物便の減少により運賃が高騰し、鉄道を使用した輸送のニーズが増加しています。また、海上輸送においても中国の工場が閉鎖されていたため荷量が減少し、運航数も減少しており鉄道輸送の需要が高まっています。
東アジア	<b>中国</b>	4月21日	・1月に武漢がロックダウンとなってから約11週間後の3月28日に中欧班列の運行が再開しました。医薬品や自動車部品、電子機器や通信機器が積載され、ドイツ、フランス、ハンガリー、チェコ、ポーランドへ輸送される予定です。今後は武漢発が週2回、欧州発が週1回運行予定です。 ・山東省から欧州各地に向かう代替郵便輸送ルートの運用が開始されました。青島市の郵便局からコンテナトレーラーで発送された郵便物は、浙江省義烏市で国際貨物列車に積み込まれ、13日後ポーランドに到達し欧州各地へ配送される予定です。
	<b>香港</b>	4月7日	・広東省深セン市政府は、香港から入境する全ての貨物車両の運転手に対して、指定の健康認証コードと「PCR法」による新型コロナウイルス検査の陰性結果証明の提出を義務付けると発表しています。
東南アジア	<b>カンボジア</b>	4月21日	・北西部バタンバン州で、ブノムデイ検問所を通じたタイとの物流が再開しました。タイ当局は3月18日よりカンボジアとの国境を封鎖し、バンテイメンチェイ州ポイベト、ウドンメンチェイ州オスマック、バタンバン州ドン経由に限り物資輸送を認めていましたが、トラックが集中して検問所が混雑し流通に遅れが生じていました。
	<b>ベトナム・カンボジア・ラオス国境</b>	4月7日	・4月1日からベトナムとラオスおよびカンボジア国境を往来する全ゲートを閉鎖し、人の出入国を一時停止しました。 ・一方で、ベトナムとカンボジアの国境の通関ゲートは通常通り機能しています。検疫をクリアすれば国境貿易が可能な状態であり、南部アンザン省のカインビン国境ゲートは、1日当たりトラック約40台が利用しています。 ・カインビン国境ゲートでは車両消毒、運転手のマスク着用確認と検温を実施しており、荷動きに変化はありません。
	<b>ミャンマー</b>	4月27日	・ヤンゴン管区政府は、コンテナトラックの日中走行（午前7時～午後8時）を一時的に許可しました。引続き夜間外出禁止令により夜間走行は禁止されています。
南アジア	<b>パキスタン</b>	4月21日	・3月16日から2週間国境を閉鎖していますが、期間を4月28日まで延長しました。パキスタンとアフガニスタンの国境2か所については貨物トラックのみ週3日通過可能です。 <u>(さらに移動制限措置は5月9日まで延長する旨発表しました。)</u>
アフリカ	<b>セネガル</b>	4月2日	・ロックダウンは行われていないものの、3月31日から2週間、午後9時～午前5時まで外出禁止となっています。 ・20人以上の集会が禁止され、コナクリ空港は3月23日から閉鎖されています。 ・国境および港湾施設はオペレーションを継続しています。 <u>(小中高の最終学年につき、6月2日より学校教育を再開することを決定し、高等教育については6月2日～14日の間に再開方針を決定するよう呼びかけています。)</u>
	<b>ギニア</b>	4月27日	・夜間（21時～5時）の外出が禁止されているため、港湾および空港は8時～16時に限定してオペレーションを継続しています。 <u>(外出時はマスクなど覆いを着用するよう義務付けられ、違反者には30,000ギニアフランの罰金が科されます。)</u>

ア フ リ カ	リベリア	4月2日	<p>・感染拡大防止のため、教育機関や教会、モスクを閉鎖しています。<u>(自宅待機措置は4月24日よりさらに2週間延長予定です。)</u></p> <p>・港湾施設では特段規制は設けられていません。</p>
	コートジボワール	4月2日	<p>・3月29日から最大都市アビジャンがロックダウンとなり、午後9時～午前5時の外出が禁止されています。</p> <p>・港湾施設はオペレーションを継続していますが、港湾外での物流は、上記時間中、禁止されています。</p>
	ガーナ	4月2日	<p>・ガーナ政府は一時的に人の移動を禁止し、教育機関も閉鎖しており、国境を閉鎖しています。また、港湾施設は、入港手続きは厳格な運用となっているものの、オペレーションを継続しています。</p>
	トーゴ	4月27日	<p>・ロックダウンが継続され、夜間(19時～6時)の外出が禁止されています。港湾施設は24時間稼働していますが、バルク船の夜間荷役作業は中止となり午前5時以降の対応となっています。</p>
	ベナン	4月2日	<p>・ベナン政府はコトヌー、ポヒコン、アラダ、ウィダー、イラコンジのロックダウンを宣言していますが、目立った影響は出ていません。</p> <p>・港湾施設はオペレーションを継続しています。</p>
	ナイジェリア	4月27日	<p>・ロックダウン中であり、政府は国境の閉鎖期間を5月4日まで2週間延長しました。ラゴス港は閉鎖されており、すべての活動が停止しています。</p> <p><u>(連邦首都圏区・ラゴス州・オグン州の終日外出禁止措置を緩和するものの、5月4日からは国内全土で午後8時から午前6時までの外出を禁止する夜間外出禁止令を発令するとともに、各州間の移動・公共の場でのマスク着用の義務化を指示しています。)</u></p>
	カメルーン	4月2日	<p>・カメルーンでは正式にロックダウンの宣言はされていませんが、感染者数増加により数日以内に宣言される可能性があります。<u>(教育機関の閉鎖・50人以上の集会の禁止等、13項目の政策が新たな指示があるまでの無期限措置として発表されています。)</u></p> <p>・3月17日から空港と国境が閉鎖されていますが、港湾は貨物を限定してオペレーションを継続しています。</p>
	ガボン	4月2日	<p>・ロックダウン宣言により、午後7時半～午前6時まで外出禁止となっています。<u>(現在は午後6時～午前6時までの外出禁止に変更。)</u></p> <p>・また、国境および空港は閉鎖されています。港湾は現時点では荷役業者の不足もなく、稼働しています。</p>
	コンゴ	4月27日	<p>・ロックダウンを5月11日まで延長しました。また、ポアントノール港はオペレーションを継続していますが、業務を一部縮小しています。</p>
	コンゴ民主共和国	4月2日	<p>・全国でロックダウン宣言されており、教育機関や教会、モスク、娯楽施設は閉鎖しています。また、50人以上の集会は禁止され、午後8時～午前5時の外出も認められていません。<u>(4月22日からキンシャサ特別州ゴンベ地区では食料品店・銀行の運営再開しており、識別賞なしでの同区内移動は可能となりました。なおマスク着用が義務化され、違反者は5000フランの罰金を科されます。)</u></p>
ジブチ	4月2日	<p>・ジブチは3月24日から14日間ロックダウンとなっており、国内のほぼ全ての活動が縮小されています。<u>(その後5月8日まで外出禁止は継続中。)</u> また、港湾施設は通常通りオペレーションを継続していますが、稼働率は低下しています。</p>	

オセアニア	オーストラリア	4月13日	<p>・メルボルン港では、中国からの輸入貨物の滞留により保管量が限界を迎える可能性があります。輸出用のコンテナヤードもキャパシティの限界を迎えており、コンテナを保管する代替施設が必要となっています。また、中国向けの輸出貨物はコロナウイルス感染拡大により約20隻の運航がキャンセルとなり、先月輸出予定となっていた貨物も港に滞留したままとなっています。</p>
-------	---------	-------	--

## 2. 弊社グローバルネットワークのご案内

前述のように各国政府からの指示により行動制限が発生しているものの、現時点では海外拠点の弊社社員、海外クレームエージェントを含め、リモートワークなどを活用してお客様対応を継続しております。事故発生の際には、下記の損害サービスネットワーク、弊社コマーシャル損害部または営業課までご連絡いただきますようお願い致します。

[https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine\\_site/songai/kamotsu/kaigai\\_network/](https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/songai/kamotsu/kaigai_network/)



【出典】

<https://www.nna.jp/news/show/2038876>

<https://www.nna.jp/news/show/2038723>

<https://www.jmd.co.jp/article.php?no=256685>

<https://www.jmd.co.jp/article.php?no=256681>

<http://www.daily-cargo.com/new/news/138987/>

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

マリンピックアップのバックナンバーはこちら

